

鎌倉交響楽団

第93回定期演奏会



写真・武藤章

鎌倉芸術館大ホール 2009年7月11日(土) 14時開演

[後援] 鎌倉市教育委員会 鎌倉エフエム放送

Kamakura Symphony Orchestra

プロフィール

指揮 / 山上 純司 (やまがみ じゆんじ)



1960年水戸市生まれ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻前期修士課程終了。

汐澤安彦、遠藤雅古、渡邊暁雄、ビクター・フェルドブリル各氏のもとで学ぶ。大学院2年次より作陽音楽大学に勤務、オーケストラ、吹奏楽及び指揮法を担当。94年3月まで専任講師、助教授を務めた。

90年より2年間北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルト音楽大学に留学。カール・ハインツ・ブレメケ教授、ペーター・ヤコビー教授らのクラスで、主にオペラの指揮を学ぶ。

また、モーシェ・アツモン、ガリー・ベルティエニ、ミヒャエル・ギーレン、ミクローシュ・エルディリー各氏からも指導を受ける。

留学中よりルーマニア国立オラディアフィルハーモニー交響楽団、チェコの西ボヘミア交響楽団、ポーランドのフィルハーモニア・ズデッカ等の定期演奏会に出演。

また、ドイツではオッフェンバックのオペレッタ「CROQUEFER」の公演を指揮した。

日本ではこれまでに群馬交響楽団をはじめ、札幌交響楽団、ニューフィル千葉、神奈川フィル、名古屋フィル、大阪フィル、オーケストラアンサンブル金沢、岡山フィル、広島交響楽団等を指揮している。

オペラの分野では、「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「こうもり」「椿姫」「リゴレット」「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「カルメン」、バレエの分野では、「くるみ割り人形」「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」等を指揮している。2003年ハイドンのオペラ「無人島」で新国立劇場初登場。

ピアノ / 土田 定克 (つちだ さだかつ)



1975年東京生まれ。

4歳よりピアノを始め、ヤマハ音楽教室専門コース修了。桐朋学園大学附属子供のための音楽教室修了。桐朋女子高等学校音楽科(共学)首席卒業。

1994年、桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマコースを経て渡露。

2000年、モスクワ音楽院を実技5+で卒業。

2001年、第1回仙台国際音楽コンクール、セミファイナリスト。

2002年、モスクワ音楽院大学院修了。

2002年、第3回ラフマニノフ国際ピアノコンクール(モスクワ)にて第1位を受賞。

2004年、ロシア・ペルミ市長より功労感謝状を授与される。2005年、帰国。

モスクワ音楽院大ホール及び小ホールにて協奏曲とリサイタルを数回開催。モスクワ、タンポフ、イジェフスク、ベルミ、ヴォローネジ、オムスク、ヴォログダ、キスロヴォツク、トゥーラ、ベルゴロド等にてリサイタル、協奏曲のソリストとして出演。フェドセーエフ、コーチネフ、アンナマメードフ、シェスタコフ、ヴァシーリエフ、チャチェンコ、タブリク等の指揮者と協演。国内各地にてリサイタル・コンサート開催。

ボリショイ交響楽団(BSO)、モスクワ交響楽団、ヤロスラブリ交響楽団、オムスク交響楽団、タンポフ交響楽団、ミンボード交響楽団、HRTクロアチア放送交響楽団、秦野市民交響楽団、町田フィルハーモニー交響楽団、大江戸交響楽団、会津若松市民交響楽団等と協演。

ピアノを小西由紀子、坂田晴美、兼松雅子、A. ムンドヤンツ、V. メルジャーノフの各氏に師事。伴奏法をM. クラフチェンコ、室内楽をモスクワトリオのA. ボンドゥリヤンスキー、指揮をE. クストフスキーに師事。

「ラフマニノフ・24のプレリュード」2枚組CDをミュージックレーベンよりリリース。

2007年11月クロアチアのザグレブ弦楽四重奏団と日本大学カザルスホールで協演。

2007年3月、及び2008年2月、タイ・バンコクにてリサイタル。

2008年4月、モスクワ音楽院ラフマニノフホールにてリサイタル。

2008年10月、クロアチアの首都ザグレブにてグリーグの協奏曲をHRTクロアチア放送交響楽団と協演し、当地のテレビやラジオにて放映された。

現在、尚絅学院大学女子短期大学部専任講師。宮城学院女子大学非常勤講師。

♪ 今回の演奏会にあたり、ご指導いただいた先生がた<敬称略>♪

木原重土、小泉智彦、高山泰利、平林剛

鎌倉交響楽団第93回定期演奏会

Kamakura Symphony Orchestra The 93rd Regular Concert

[指揮] : 山上 純司
Junji YAMAGAMI, Cond.

P. チャイコフスキー :
Peter Tchaikovsky

スラヴ行進曲
Slavonic March

S. ラフマニノフ :
Sergei Rachmaninov

パガニーニの主題による狂詩曲
Rhapsody on a Theme of Paganini

[ピアノ独奏] : 土田 定克
Sadakatsu TSUCHIDA, Pf

----- 休憩 *Intermission* -----

D. ショスタコーヴィチ :
Dmitri Shostakovich

交響曲 第5番 二短調
Symphony No.5 in D minor

プログラム・ガイド

本日演奏する曲の作曲家、チャイコフスキー(1840～1893)、ラフマニノフ(1873～1943)、ショスタコーヴィチ(1906～1975)の3人を並べると、帝政ロシア末期からソビエト連邦後半までに亘り、まさにその作品や経歴はロシア近現代史と重なります。曲目を紹介する前に少しこのあたりのことを記したいと思います。

はじめにお届けする「スラヴ行進曲」は、後半の曲目紹介にも記しているとおり、1876年のセルビア(ロシアと同じスラヴ民族の国)とオスマン・トルコとの間に生じた戦争を背景にしていますが、この戦争をきっかけとして1877年にはロシアとオスマン・トルコが戦っています。当時ロシアは南下政策の一環として「汎スラヴ主義の盟主」を旗にバルカン半島への進出を目論んでいるところでしたので、当時この地域を支配していたオスマン・トルコとは幾度となく戦争をしています。

この時の戦争ではロシアが勝利していますが、その後時代は下って1904年、今度は極東への進出を巡って日本との間で日露戦争を戦います。そして、この戦争では日本が勝利します。この日本の勝利は、オスマン・トルコで大変な関心呼び、トルコが親日国家となった所以と言われています。因みに、その勝因となった日本海海戦において日本海軍の連合艦隊を率いていた東郷平八郎の名前は、トルコではトーゴ通り、トーゴビールの名で今でも残っているようです。

その後のロシアでは、日露戦争の敗戦も影響し革命が発生、1917年の十一月革命により帝政ロシアは崩壊します。この十一月革命の際、チャイコフスキーの音楽に魅了され、かつ、生前のチャイコフスキーからも高く評価されていたラフマニノフはアメリカへ向けて出国。以後、二度と祖国へ戻ることはなく、アメリカで活動していくこととなります。このように活動の場はロシアからアメリカへと変わりましたが、メロディーメーカーと言われたチャイコフスキー同様、哀愁を帯びた美しい旋律の曲を作曲し続けています。有名なピアノコンチェルト第2番や交響曲第2番はロシア時代に、本日演奏する「バガニーニの主題による狂詩曲」や「交響的舞曲」はアメリカに渡ってから書かれたものです。

十一月革命後のロシアでは様々な混乱の後、1922年ソビエト社会主義共和国連邦が成立します。しばらくは権力闘争がありますが、やがて政治体制が確立すると芸術分野においても「社会主義リアリズム」-「形式において民族的、内容において社会主義的」の路線が求められるようになります。そして、この路線に反すると目されると、ソビエト共産党より厳しい批判に晒され社会的に抹殺されてしまう状況になりました。このような環境で作曲を行っていたショスタコーヴィチは、そもそもチャイコフスキーやリムスキー・コルサコフ等と共に西欧音楽を取り込みロシア音楽の確立に尽力したグラスノフに学んだ作曲家でしたが、その西欧的な作風を理由として、1936年、1948年の二度に亘り批判に晒され、その都度、政府が自国の音楽に求めた路線に従った作品や当局に迎合した共産党賛美の作品をつくることで名誉を回復しています。本日お届けする交響曲第5番も、正に名誉回復を賭けて作曲された曲です。

少しくどくなりましたが、ロシア、ソビエトの近現代を生きた3人に思いを馳せつつ本日のプログラムを楽しんでいただければ幸いです。それでは、それぞれの曲を紹介します。

1. スラヴ行進曲 op.31 P.チャイコフスキー

セルビア(ロシアと同じスラヴ民族の国)とオスマン・トルコとの間に戦争が生じた1876年、ロシアの指揮者ニコライ・ルビンシュテインは負傷兵慰問基金募集の慈善演奏会開催を呼びかけました。チャイコフスキーはその呼びかけに応え、この曲を作曲しました。同年モスクワで初演されています。

曲は、コントラバスとティンパニを伴奏にファゴットとヴィオラが奏でる変口短調の重苦しい旋律から始まります。この旋律は楽器を変えて何度も現れますが、戦意を駆り立てていくように次々とスラヴ風の旋律が現れ進んでいきます。そして終盤、ロシア国歌「神よツァーリを護り給え」の旋律も加わり、スラヴ民族の勝利を高らかに謳い上げるようなクライマックスが訪れ、曲は力強く終わります。

プログラム・ガイド

2. バガニーニの主題による狂詩曲 op.43 S. ラフマニノフ

この曲は、タイトルにもあるとおりバガニーニの「無伴奏カプリース」作品一の第24曲イ短調の曲を主題とする変奏曲として、1934年に、作曲、初演されたものです。

作曲したラフマニノフ自身がピアノのヴィルトゥオーソ（技巧的に優れた演奏家）であり華麗な演奏を披露する巨匠であったことから、この曲も複雑で技巧的な作品となっており、ピアノの華麗な名人芸と色彩豊かな管弦楽の掛け合いが聴き所となっています。

曲は、短い序章から始まった後、主題が24回変奏され、コーダで終わります。なお、バガニーニの主題の他にも、ベルリオーズ作曲「幻想交響曲」の第5楽章でも使用されていることで有名なグレゴリオス聖歌の「怒りの日」の旋律が随所に使われています。また、変奏曲の中にはCM等で耳にすることのある有名な旋律も出てきますので、お楽しみください。

3. 交響曲第5番二短調 op.47 D. ショスタコーヴィチ

この曲は、1937年に作曲され、同年、ソヴィエト革命二十周年記念日に、ムラヴィンスキー指揮のレニングラード・フィルハーモニー交響楽団により初演されました。

作曲したショスタコーヴィチは、1924年発表の交響曲第一番でソビエト連邦の楽壇に華々しくデビューし、その後の活躍により「ソ連の天才」として国際的な名声を得るまでになります。しかし、1930年代に入ると、前半に記したとおり、社会主義国家体制が確立し、芸術分野においても「社会主義リアリズム」として「簡潔・明確・真実」が要求され、ショスタコーヴィチの曲はそれらに反するものとして、ソ連共産党より激しく非難されることになります。この結果、生存さえ危機に晒される状況におかれることとなりますが、批判を内省して、この交響曲第5番を書き上げます。この曲は発表直後からソビエト国内で高く評価され、ショスタコーヴィチは再び当局の信頼を得てその名声と地位を回復することとなります。

このような経緯から、体制に迎合した芸術家とみなされることとなりますが、死後に出版された「ショスタコーヴィチの証言」にて、反ソ連的な姿勢が明らかとなるに及んで、政治に翻弄された悲劇の芸術家として見られることになりました。

ただ、現在では同書は偽書であることが判明し、ショスタコーヴィチの真意は判然としませんが、この曲はベートーベンの交響曲第5番と同様、「苦悩から勝利へ」の精神が謳われていると言われますが、一方では、様々な反体制的姿勢が織り込まれているとも言われています。本日の演奏を聴いてくださる皆さんは、どのように感じられるのでしょうか？

曲は、次の四楽章からなります。それぞれの楽章の具体的な説明の代わりに、ソ連の評論家（第一楽章から第三楽章）と作曲家本人（第四楽章）による楽章ごとの説明を記します。

第一楽章 モデラートーアレグロ・ノン・トロツポ

「自問・・・または幼児の思い出」

第二楽章 アレグレット

「再びかえりこぬ過去への皮肉な微笑」

第三楽章 ラルゴ

「涙の苦しみにあふれ」

第四楽章 アレグロ・ノン・トロツポ

「これまでの諸楽章に課せられたあらゆる課題に対する解答」

団員出演者名簿

名誉団長：日比谷 平一郎 コンサート・マスター：五味 俊哉 マネジャー：芥川 敬/今城 信彦
 団長：山本 賢二 事務局長：田中 幸一 桐本 圭三/鈴木 美緒
 ライブラリアン：石橋 智子 会計：曾根 民子 蛸島 茂樹

今年度より、常任指揮者を空席といたしました。古谷誠一先生の永年にわたる鎌倉交響楽団へのご指導に対し、団員一同心より感謝いたします。

1st Violins

青柳 由紀
 石川 雄太
 岩谷かおり
 川西 清美
 桐本 圭三
 五味 晶子
 ●五味 俊哉
 白水 千晶
 菅井 直介
 鈴木 政彦
 曾根 民子
 武政 宏晃
 富岡 陽子
 土門玄太郎
 土門 寛子
 福山 彩子
 本山まり子
 八木 育江

2nd Violins

青木 淑子
 新井 俊成
 石川 静
 石橋 智子
 梅原 哲郎
 小川 穰
 栢原 穂貴
 ●河原 寛
 河原勢津子
 鈴木 涉子
 関口 杏奈
 多田 廣之
 中橋美木子
 馬場 潔子
 望月由佳子

山岡 祐介
 山崎 隆

Violas

阿部 明美
 石川 まり
 梶 成彦
 梶原 庸子
 ●佐々木敬史
 高橋 良子
 田中 順子
 中川 孝之
 正木 基身
 三門サカエ
 ●水上 清

Cellos

●飯田 達男
 大庭 伸仁
 梶 淳子
 佐藤 洋子
 志村 篤子
 鈴木 達広
 中井 良樹
 ●中川 優子
 中野太一郎
 二川 有子
 毛利 史子

Contrabasses

大内 達郎
 佐藤 正
 ●中村 安孝
 原 宏造
 ●福島 晋哉
 丸 陽子

矢野 健
 渡辺 均

Flutes & Piccolo

菊竹 秀夫
 ●曾根 美樹
 高橋 弘子
 高畑 裕恵

Oboes

●桑野 若菜
 中橋 英純
 山崎 一哉
 山本 賢二

Clarinets

内田千枝子
 片山真知子
 鈴木 美緒
 ●前沢 実
 山崎 潤

Bassoons

富井 一夫
 三原 一真
 ●矢吹 紀子

Horns

芥川 敬
 市川 靖
 露木 朋子
 福地 亜希
 山崎 和之
 ●山田 克彦

Trumpets

後藤三穂子
 竹内 純子
 津金 勝枝
 ●福地 稔栄

Trombones & Tuba

有賀 功
 ●桜井 貴志
 瀬島 一海
 府川 創作
 ○煤孫さえ子

Percussion

今城 信彦
 ●太田 純
 高橋 正彦
 蓑田 俊之
 ※鈴木 謙人

Harp

※森 真由美

Piano & Celesta

※鈴木 美祐

●：パートリーダー
 ○：団友
 ※：賛助出演

Implant Center KAMAKURA



田中歯科御成町

インプラント・審美歯科
 鎌倉駅西口みずほ銀行向かい・勝烈庵2階
 TEL&FAX 0467-24-0882 <http://www.tanaka-dc.com/>

鎌倉交響楽団 演奏会のご案内

♪ 第17回室内楽演奏会

日時：2009年8月15日(土) 14時開演予定
 場所：鎌倉生涯学習センター ホール 入場料：無料
 曲目：小編成のアンサンブルを予定しています

♪ 鎌倉交響楽団 市民文化祭2009 特別演奏会(第94回)

日時：2009年11月7日(土) 14時開演予定
 場所：鎌倉芸術館 大ホール 入場料：¥1,000(全席自由・当日券有予定)
 曲目：モーツァルト 交響曲第39番 委ホ長調
 グレンダール トロンボーン協奏曲 トロンボーンソロ 府川雪野
 バルトーク オーケストラのための協奏曲

指揮：三原 明人

♪ 第8回ファミリーコンサート

日時：2010年3月6日(土) 14時開演予定
 場所：鎌倉芸術館 大ホール 入場料：¥1,000(全席自由・当日券有予定)
 曲目：詳細未定
 指揮：小泉 智彦

<http://homepage2.nifty.com/kso/>

HAIR SALON

JURI et MODE

鎌倉市御成町11-2
 (ヤのヤビルB1)
 TEL.(0467)22-4105

和風居酒屋 花のれん

▷ 営業時間 ◁

平日 PM4:30~AM12:00 休日 PM3:00~AM12:00
 大晦日・元旦 休業

☎(0467)46-0080



信頼と確かな技術の店
 メガネの専門店

八幡宮前通り

森川眼鏡店

メガネの事ならなんでも相談
 お気軽に。



- 遠中近多焦点レンズ
 - 中近多焦点レンズ
 - 近用レンズ
- あなたに合ったメガネ
 を御調整致します。



TAKUZO

弦楽器工房 拓哉

弦楽器製作・修理・販売

神奈川県横浜市港北区

篠原町1497-11

TEL&FAX: 045-423-4233

■ 営業時間: 10:00~19:00

※ 10:00~13:00 予約制

■ 定休日: 日・月・祝祭日



健保・労災取扱

大船
 接骨院

佐藤 和義

大船駅東口ルミネ前

サトウビル

☎0467(45)6700(代)

輸入楽譜専門

全国すぐ
 郵送します。



KAMAKURA
 MUSIJA

(株)カマクラムジカ

TEL.0467-24-8766

FAX.0467-22-9755

〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-1-33

定休日 = 日曜日・祝祭日

クラリネット

レッスンしてみませんか?
 (フリータイム制)



横浜市戸塚区戸塚町3755-1-1-307

川下方 TEL 045-865-4885

片山クラリネット教室

耳鼻咽喉科、アレルギー科、神経耳科(めまい診療)

芋川耳鼻咽喉科クリニック

鎌倉・小町壺番館ビル3階 院長 芋川英紀

電話 (24)7273

鎌倉といえば・・・

鳩サブレー



豊島屋

鎌倉八幡宮前通り
TEL 0467-25-0810(代)

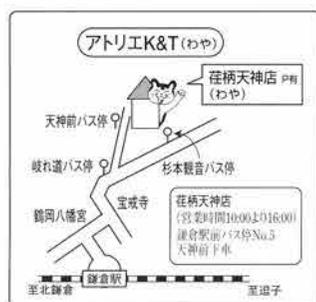
世界で一番小さいデパート

アトリエ K&T (わや)

「食料品から衣料品まで」

古布ちりめんの香袋など
オリジナル商品、かわいいもの、素敵なもの、
両手いっぱいにあります!

営業時間/10:00~16:00 営業日/木、金、土
〒248-0002 鎌倉市二階堂38-9 TEL.0467-24-5918



フリーダイヤル 0120-50-2615
<http://homepage3.nifty.com/k-t/>



Bank of Yokohama

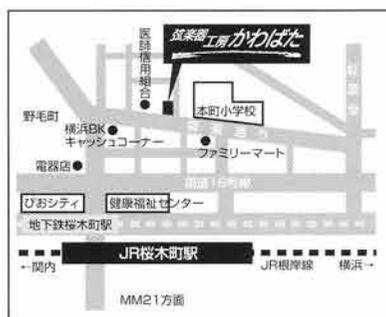
Afresh あなたに、あたらしく。

横浜銀行
鎌倉支店

TEL:0467-23-3131

《製作・修理・毛替・販売》

弦楽器工房かわばた



TEL.045-261-5300 〒231 横浜市中区花咲町2-77 大久保ビル2F ●営業時間/AM10:00~PM7:00 (日・祭休み)